

読者のみなさんへ

このシリーズは、労働組合活動家と研究者の「共同作品」です。なぜ「共同作品」かといえば、このシリーズは、企画の段階から、取材、執筆の段階まで、じつに大勢の労働組合活動家に参加していただいたからです。そして、労働問題、社会福祉・社会保障、婦人問題、障害者問題、労働法など各分野の研究者、それに弁護士など専門家の方々と、文字どおりの共同作業をすすめるなかで生みだされた作品だからです。

本書を開いていただければわかるように、ここでは、全国の職場、地域のさまざまな創意あふれる取り組み、労働委員会や裁判闘争の経験などを豊富に紹介しています。これらの経験は、当該の地域や産業ではある程度知られていても、領域がちよつとずれると幹部活動家でも意外に知らないことが多いのです。本来、これらは、これからの労働組合運動の共有財産とすべき貴重なものであり、労働組合運動の生きた教材です。こうした先進的な経験があったからこそ、本シリーズは豊かな内容をもつことができたといえます。そうした意味でも、このシリーズは、活動家と研究者の「共同作品」なのです。

このシリーズは、労働組合運動の実用的な参考書をめざしています。いま、日本の労働組合運動は、大きな飛躍が求められています。その新しい時代の要請に応えるため、全国各地のさまざまなたたかいの経験を集約し、職場、地域、労働者の生活の実際に即しつつ、たたかいのノウハウ、取り組みへのヒントをまとめたのがこのシリーズの類書にない特徴といえます。編集にあたっては、まだ組合も

ない職場、組合があつても会社派が牛耳っている職場を十分考慮にいられています。本書を読んで、新たな取り組みへの知恵と勇気が湧けば、このシリーズの目的は達せられたことになりませう。

このシリーズは、労働組合運動への入門書の役割も果たすことになるでせう。用語解説、法律・制度の解説等もきつちりまとめました。本文を読みながら、それらの知識が身につくよう工夫されています。いま、労働基準法をはじめ、戦後の労働諸法制の全面再編が進行中です。司法の反動化も厳しいものがあります。昔勉強したこととて間に合わせが効くという時代ではありません。本シリーズは基礎学習にも共同学習のテキストにも役だつことと思ひます。もちろん、運動方針づくりなどには欠かせない必携の書です。情勢を具体的に分析し、現実に向かうリアルな方針をまとめるうえで、おおいに役だつこととせう。

ですから、本シリーズは、新入組合員から組合の幹部まで、さまざまに活用できるでせう。活動家の後継者育成はこの組合でも急務となつていますが、その面からの活用も期待されます。もちろん、未来の労働者である学生諸君にとつても、現実の労働問題を知るシリーズとして有益です。

いま、全労連と「連合」の二つのナショナルセンターが同時成立したことにより、日本の労働組合運動は、まったく新しい時代に突入しました。新しい時代にふさわしい労働組合運動がたくましく発展していくことに、本シリーズが役だつことが、本書の出版にかかわつた活動家、執筆者、編集委員の共通の願ひです。

労働問題実践シリーズ編集委員会

大木一訓（代表）

伊藤欽次 金田 豊

木下武男 草島和幸

はじめに

一九八九年、全労連と「連合」が結成され、日本の労働組合運動は二つのナショナルセンターが相互対峙する新しい段階に入りました。この歴史的時点において、日本の労働組合のあり方について深く考え、新たな出発をとげることが求められています。日本の労働組合は、民間大企業における経営者による労働者・労働組合支配、未組織労働者の増大、企業主義的労働組合運動など大きな欠陥を長い期間にわたって克服できていません。

いま、たたかう潮流には、労使癒着の「連合」でもなく、これまでの総評運動でもない、あらたな労働組合運動を展開することが迫られています。そのためには、労働組合の運動論、組織論を学ぶ必要があります。同時に重要なことは日本におけるすんださまざまな経験を摂取することであり、また労働組合運動の先進国の経験を知ることでもあります。この努力をつうじて日本の労働組合の改革の方向も見えてくると思われます。

本巻「労働組合を創る」は、労働組合組織論のなかの組織化論にあたることです。日本の労働組合運動にとって、未組織労働者の組織化の課題は重要な位置を占めています。日本の労働組合運動が始まって以来ともいえるような大規模な組織化運動が求められています。この運動をつうじて、「連合」が日本の労働組合の多数を占め、たたかう潮流が少数であるという状況も切りかえていくことができると思われます。

労働者の組織化が労働組合にとって必要だというのは誰も異存のないところですが、組織化は「賽

の河原の石積み」といわれるように遅々としてすすみません。はなばなしストライキや激しい団体交渉と違って、地道な営々とした努力があつて初めていくばくかの成果がえられるのです。労働者の組織化をすすめるためには、なぜこれまで組織化はすすまなかつたのか、組織化はなぜ必要なのかを研究し、労働組合の組織のあり方や組織化の方法を学ぶ必要があります。第I部の問題提起と第II部の先進的な事例はその解答の糸口になると思います。

また「労働組合を創る」ことは、日本の労働組合を本格的に創ることをも意味します。大々的な組織化運動を前進させるためには、企業別労働組合の欠陥を直視することが不可欠であり、その克服のための具体的な手だてが要求されます。労働組合の自己改革と結びついて初めて未組織労働者を結集することができるのです。

しかもその未組織労働者の多くは中小零細企業の労働者ですから、組織化運動は民間大企業と官公労とに偏重している日本の労働組合員の分布の構造をつき崩し、相対的に労働条件の劣悪な分野に労働組合を創造することもあります。各分野に労働組合が確立することによって格差と競争の日本社会を変革することができます。

なお、本巻は主題が組織化でありますから、運動よりも組織のあり方を検討していますし、また分野としても民間大企業や官公労それ自体の運動と組織には言及していません。これらの点は、第六巻「労働組合運動の新展開」および各巻を参考にしてください。

本巻によって、組織化運動と労働組合改革のための、いくらかの手がかりを読者のみなさんが得ることができれば幸いです。

目次

読者のみなさんへ 3

はじめに 7

I 労働組合を創る

①労働者の組織化と企業別労働組合 12

②今日の日本にとって労働者の組織化は特別に重要である 20

③組織化をすすめるために 39

II どう取り組むか—その経緯とノウハウ

①中小零細企業分野における企業横断的組織化 50

1—中小零細企業分野における組織化の特徴とその意義 51

2—(事例)集团的労使関係の形成と組織化の条件—産別一般のはあい 53

②一般労働組合という組織形態 57

- 1-1 一般労働組合とはなにか 57
- 2-1 (事例1)「産業別を軸としながら一般労働者の全国的結集をはかる」
—建設一般全日自労のばあい 60
- 3-1 (事例2)「運輸全般の組織化」から「本格的な多業種産別」へ
—運輸一般のばあい 61
- 4-1 業種別組織の確立と未組織の組織化・組織統一 63
- 5-1 (事例3)たたかっ労組の専売特許ではない——センセン同盟のばあい 70
- 6-1 一般労働組合の種類と課題 72
- ③産業別・職能別組織化のめざましい発展——75**
- 1-1 (事例1)アロ野球労組 75
- 2-1 (事例2)音楽家工二才 83
- 3-1 (事例3)東京土建 90
- 4-1 職能的労働者と労働組合 100
- 5-1 労働者供給事業の労働組合 101
- ④企業別労働組合連合体(単産)における個人加盟組織——106**
- 1-1 (事例1)出版労連 107
- 2-1 (事例2)電算機関連労働組合協議会 113
- ⑤パートなど労働者の多様化・多層化にどう対応するか——116**
- 1-1 増加する「非正規雇用労働者」の低い組織状況 116
- 2-1 (事例1)「パート労働者懇談会」という柔軟な接近の模索と探求

- 生協労連のばあい 119
- 3—(事例2)「連合」加盟単産による「フルタイム」型の組織化——セン
セン同盟のばあい 122
- 4—(事例3)派遣労働者の企業横断的個人加盟による組織化——民放労連
の地区労働組合のばあい 126
- 5—(事例4)「道具をもった労働者」の組織化——ダンブ運転手を組織した
建設一般全日自労のばあい 130
- 6—(事例5)日本の年金者組合 136
- 7—(事例6)「專業季節労働者」の組織化——建設一般全日自労北海道のば
あい 138
- 8—「労働者性の発見」とそれにふさわしい組織形態の探求——日本と世界
の労働組合運動の経緯 140
- ⑥「地域を職場とする」労働者のための組織化の経緯——143
- (事例1)「ミ/ユニティ・ユニオン」の成果と問題点 144
- 2—(事例2)「地域労組」運動の経緯から 150
- 3—(事例3)「愛知・きずな」のばあい 153
- ⑦官公労における組織拡大——160
- (事例1)自治体の嘱託職員を組織化——岡山市職労のばあい 161
- 2—(事例2)東京都職労の新しい試み 165
- (事例3)第一組合が第二組合を逆転し、過半数組織を達成——全建労

のちのこ 168

⑧管理職の組織化がはじまった——173

1—「ミリタント・マネージャー（たたかう管理職）」の組織化 173

2—中間管理職の団結権をめぐる法制上の問題 176

3—銀行における管理職のたたかいと組織化の経験 180

4—「連合」傘下組合の管理職組織化方針はどのようなものか 185

5—欧米における管理職の組織化 187

⑨「戦国時代」の組織化戦略——「連合」と全労連の組織方針——191

1—「連合」の組織方針 191

2—全労連の組織方針 196

⑩組合つくりと結成前後の取り組み——201

1—組合つくりの準備段階 201

2—結成大会にむけての実務活動 209

3—結成大会の開催と組合の公然化 212

㊦ ㊧ ㊨

●労働組合組織化の経験をふりかえる 26

●組織拡大見聞記（木下武男） 96

●アメリカのディストリクト65 156